

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi

第53回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日：2025(令和7)年12月7日(日)

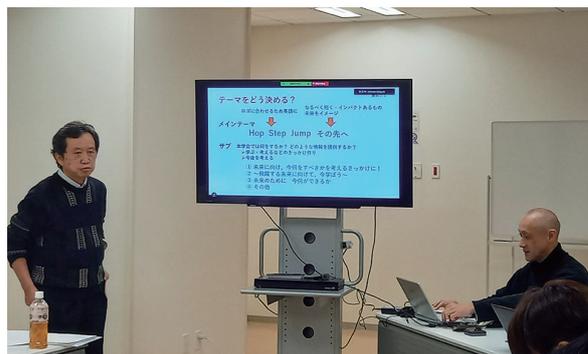
開催場所：ソニックシティ

テーマ：ホップステップジャンプ

サブテーマ：～飛躍する未来に向けて、今学ぼう～



～飛躍する未来に向けて、今学ぼう～



(写真：実行委員会の様子)

このたび、第53回埼玉県医学検査学会の実行委員長を務めさせていただきます、上尾中央医科グループ 蓮田一心会病院の野本隆之と申します。約20数年、長らく学術活動に関わり、研究班やサーベイヤー、研究会幹事、学会運営、メーカーセミナー、被災地支援などたくさんを経験しましたが、実行委員長は今回が初めてとなります。これまでの集大成と想い、会員の皆様に有意義だったと感じてもらえる企画を用意できるよう尽力いたします。

今回のテーマやロゴは、委員みんなで付度なく投票の上、決定しました。瀧沢学会長のこだわりの詰まったテーマ「ホップ ステップ ジャンプ」、その思いを受けて私が提案したサブテーマ「飛躍する未来に向けて、今学ぼう」、AIを駆使して高橋学術部長が作成したロゴとなっています。そして間中事務局長が構成を考えてくれたポップな名刺が数パターンあり、実行委員それぞれが所有していますので、ぜひゲットしてみてください。

今、学会の胆(きも)となる様々な企画を実現するために、計画作成や交渉の準備を実行委員の総力を挙げて進めているところです。内容はまだ触れられませんが、参加していただく会員や市民の皆様にとって、規模にせよ記憶にせよ最高を目指して頑張っています。

毎月、「だより」や「学会ホームページ」等で情報を発信してまいります。ご覧いただけましたら幸いです。そして、ぜひ学会発表や学会参加いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(文責：第53回埼玉県医学検査学会 実行委員長 野本隆之)

研究班研修会報告

テーマ **血液製剤ができるまで、製剤工程を知り、製剤の安全性と
リスクを学んで行こう!!**
製造所の業務（製造・検査）について

主催 輸血検査研究班

実施日時：2025年1月17日 19時00分～20時15分

会場：ソニックシティビル 601会議室 教科・点数：専門教科ー20点

講師：松田 充俊（埼玉県赤十字血液センター）

参加人数：会員27名

出席した研究班班員：岸健太 岩崎篤史 廣田渉 志村祥太 大垣秀友 渡邊寧々 佐々木翔太

研修内容の概要・感想など

今回の研修では「製造所の業務（製造・検査）について」をテーマに、血液センターの業務体制、検査部門と製造部門を中心に研修会を行った。

松田氏は血液事業の概要から検査、製造部門、血液事業の現状課題について解説した。日本赤十字社の事業運営における実施体制は、本社が血液事業本部となり全事業運営の統括管理を担い、全国を7つのブロック単位に分け献血者の確保、血液製剤の在庫調整などを行う広域需給管理体制を構築しており、関東甲信越ブロック血液センターでは、東京、神奈川、埼玉の製造所があり、近隣都県から献血された血液が集められている。各都道府県の地域血液センターが献血推進、採血、供給に特化した業務を担っている。

検査部門では、一課が血液型検査を担当しており、一次検査は自動検査機器で実施し、ABO血液型、RhD血液型はマイクロプレート法、不規則抗体検査はカラム法で間接抗グロブリン試験のみ5プール検体で行っている。一次検査で結果保留の場合や前回成績から検査が必要な場合は、二次、三次検査で用手法を実施している。二課が感染症検査を担当しており、血清学的検査を7項目、核酸増幅検査を4項目実施しており、遡及調査の対象となる項目は4項目である。三課がHLA関連検査や血球計数などを担当しており、HLAタイピング検査やHPA検査、血球計数検査に加え、製品の規格試験も行っている。

製造部門では、全血献血の原料血液受入時に重量、温度確認を行い、血液製剤の分離調整、白血球除去、遠心・成分分離、外観検査、放射線照射の工程を経て、ラベリング、包装後保管される。成分献血では、成分献血装置を用いて特定成分のみ採血し、白血球除去も行う。外観確認後、血小板製剤は血小板数を測定し、単位数を確定する。二次製剤である洗浄赤血球、合成血液は手で製造し、解凍赤血球液、洗浄血小板は機器を用いて製造を行っている。血漿の一部は、輸血用血液製剤の他に血漿分画製剤用の原料血漿として使用されるため、製薬会社へ払い出しされる。

少子高齢化社会の進展に伴い、血液事業における主要な課題として若年層の献血者の減少が挙げられる。対策としては10代の高校生に献血の機会を提供することが、その後の献血行動に良い影響を与えると考えられている。また、冬から春にかけての献血者が減少する時期には、献血への協力が一層求められる。血液製剤を安定供給するためにも献血への協力および血液製剤の使用適正化推進は非常に重要である。

普段ルーチン業務で取り扱う血液製剤について、献血された血液が様々な工程や検査を経て、安全な血液製剤が製造されていると学ぶことができた。少子高齢化による献血者減少に伴う血液製剤の不足が問題となっており、血液製剤の適正使用と廃棄低減のため各施設で対策を講じていくことが必要である。本研修を通して、日本赤十字社と医療機関の相互協力が不可欠であると改めて認識することができた。

（文責：佐々木翔太）

テーマ 悪性リンパ腫の検査

主催 遺伝子染色体検査研究班・病理検査研究班合同

実施日時：2025年1月24日 19時00分～21時00分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科ー30点

講 演 1：悪性リンパ腫の遺伝子検査1

講 師 1：大澤 久美子（埼玉医科大学総合医療センター病理部）

講 演 2：悪性リンパ腫の遺伝子検査2

講 師 2：松野 和子（埼玉医科大学総合医療センター病理部）

講 演 3：悪性リンパ腫診断のための免疫染色

講 師 3：百瀬 修二（埼玉医科大学総合医療センター病理部）

参加人数：会員101名 非会員1名

出席した研究班班員

（遺伝子染色体研究班）折原悠太 園山政行 石橋佳朋 飯野望 相良真理子 阿部秀俊
（病理検査研究班）三鍋慎也 細沼佑介 二ツ橋雄一 小島朋子 松本祐弥 遠山人成
佐藤達也 三瓶祐也 渋谷樹

研修内容の概要・感想など

今回は遺伝子染色体研究班、病理検査研究班合同で「悪性リンパ腫の検査」をテーマに研修会を開催した。

大澤氏からは、リンパ腫診断におけるFISH検査の解説があった。2024年のWHO分類第5版への改定に伴い、さらに遺伝子異常が診断基準に組み込まれたため、FISH検査は診断において重要な役割を担っている。リンパ腫において生じた染色体転座や点変異、コピー数変化についてFISH解析を用いて組織型分類する。市販probeに加えてBAC clone probeを用いることで、より詳細な構造異常の検索が可能とのことだった。FISH検査で扱う検体としては、カルノア固定液、パラフィン切片、FFPE検体、細胞診検体がある。特に、細胞診検体は体腔液などの材料からも解析可能で組織構築を推測できるため、ある程度狙った場所を解析できるといった特徴が挙げられた。さらに、各種検体材料の安定性についての検討報告もあり、FFPEに関しては19年前、細胞診検体は13年前の検体でも検査の品質が保たれていたとのことだった。FFPE検体でアーチファクトによる偽陽性が生じる理由の解説や、cut off値の設定方法の詳細な解説もあった。

松野氏からは、PCR検査について解説があった。

リンパ腫の遺伝子検査は、大きく2種類に分けられ、1つは増殖したリンパ球のクローン性の有無を調べる検査（クローナリティ解析）、もう1つは特定の遺伝子異常（MYD88、RHOA、BRAF V600Eなど）の有無を調べる検査である。それぞれB細胞はIGH遺伝子、T細胞はTCR遺伝子の再構成の有無でクローナリティを判断する。クローン増殖した免疫グロブリンの可変部（V・D・J領域）が、モノクローナルに増殖することを利用した解析手法である。同じチューブで免疫グロブリンの各V・D・J領域同時に増幅させた後、ポリアクリルアミドゲル電気泳動でバンドを検出するIGH multiplex PCR法の詳細な解説があった。ポリクローナルな増殖であればスメア状に、モノクローナルな増殖であれば1本のバンドとして検出される。クローナリティ解析には、サザンブロット検査もあり、特異度が高く結果は診断に反映されるが、多量のDNAを必要とする。一方でPCR法はFFPE検体からのDNAを使用でき短時間で検査が可能である。しかし、偽陽性の出現には注意が必要とのことであった。

百瀬医師からは、リンパ腫の分類と免疫染色について解説があった。

リンパ腫は各種病型によって治療方針が異なるため、免疫染色は病型の絞り込みには欠かせない。病型の分類には、リンパ腫細胞の大きさ、B細胞の分化・成熟過程が用いられる。B細胞のマーカーとしてCD20, CD79a, PAX5, CD19、分化段階のマーカーとしてCD10, CD138, MUM1, BCL6がある。複数マーカーを組み合わせることで、どの成熟過程の細胞か、また、細胞の種類等を総合的に判断し、HE染色標本だけでは判断が付かない詳細な病型の分類ができる。リンパ腫の診断には、臨床・形態・分子（遺伝子）の総合的な理解によって行われていることが分かった。

今回の研修会では「リンパ腫」をテーマに、3名の講師を招き、それぞれFISH検査、PCR検査、免疫染色の検査方法について学ぶことができました。リンパ腫の病型分類は100種類以上あり、治療方針決定のためには、病型を確定させることはとても重要である。臨床症状、複数の検査結果を総合的に解釈することが求められると感じた。本研修会の内容が日々の業務の中で参考になれば幸いである。
(文責：相良真理子)

テーマ 分離菌集計報告

主催 公衆衛生検査・微生物検査研究班合同

実施日時：2025年1月24日 19時00分～20時30分

会場：ソニックシティビル 601会議室 教科・点数：専門教科ー20点

講師：飯島 一憲（株式会社ビー・エム・エル総合研究所）

参加人数：会員9名

出席した研究班班員：吉田翔平 鈴木由美子 佐藤和 菊地孝司

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、株式会社ビー・エム・エル総合研究所における薬剤耐性菌を中心とした分離状況についての報告となった。まず、薬剤耐性菌の現状が示された。不適切な抗菌薬の使用により、抗菌薬が効かなくなる、または効きにくくなる薬剤耐性菌の増加が世界中の問題となっている。このまま対策を取らないと、2050年には薬剤耐性菌による死亡者数が年間100万人に達し、がんによる死亡者数を上回ると推測される。わが国では、医療分野に限らず、畜産分野や環境分野を含めた薬剤耐性（AMR）対策アクションプランが策定され、薬剤耐性菌の増加を食い止める対策が取られている。この中には、一般市民への抗菌薬の適正使用等の教育・研修も含まれており、国民全体の薬剤耐性菌への知識の向上が期待される。

分離菌集計報告では、基質特異性拡張型βラクタマーゼ（ESBL）産生菌やカルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）は増加傾向、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）や多剤耐性緑膿菌（MDRP）は漸減傾向にあった。細菌が薬剤耐性となる機序として、抗菌薬の反応部位を変化させる（MRSA・MDRP）、抗菌薬を分解する酵素を産生する（ESBL・CRE）等があり、その耐性機序を理解することも対策には重要となる。また、ESBL産生菌やCREはプラスミドを介して薬剤耐性遺伝子を他の細菌へ伝達する可能性があることから、今後もこれらの動向には注意を要する。

このような分離菌集計報告は、現状を把握するためには必要不可欠であり、新たな流行に気付く機会にもなると考える。今後も定期的にこのような報告会を開催し、情報共有を図れればと考える。
(文責：菊地孝司)



埼臨技からの重要なお知らせ

埼臨技におけるタスクシフト/シェア 厚生労働大臣指定講習会について

平素より埼玉県臨床検査技師会の活動にご協力いただきありがとうございます。

埼玉県で2021年11月に始まったタスクシフト/シェア厚生労働大臣指定講習会ですが、埼臨技では月1回の講習会を計画しておりますが、各県で行われる研修会は法律施行から5年の**2025年度が最終年度**となります。そのため、まだ未受講で今後受講を考えている会員の方は、混み合う前に早めの受講をお願いします。（Web修了者+Web受講中=約500名）

令和6年度 日臨技事業説明 オンデマンド研修

■ 目的

会員向けに令和6年度地域ニューリーダー育成研修会のコンテンツを公開し、日臨技の各事業に対する理解を深めていただくことを目的とします。

■ 内容

以下の各事業説明コンテンツを視聴いただけます。

1. 横地会長挨拶
2. 総務・広報・システム・渉外の概要（代表理事副会長 竹浦久司）
3. 学会・認定の概要（代表理事副会長 西浦明彦）
4. 学術・教育研修全般・生涯教育の概要（代表理事副会長 山寺幸雄）
5. 国際・出版・認定（専務理事 小松京子）
6. 精度管理・学会・支部（常務理事 神山清志）
7. 精度保証・政策渉外（常務理事 益田泰蔵）
8. チーム医療／タスク・臨地実習・検体採取（執行理事 桑原喜久男）
9. 教育研修・人材育成（執行理事 宮原祥子）
10. 組織運営・事務運営（専務理事 深澤恵治）
11. 広報・災害・システム（執行理事 直田健太郎）
12. 財務・会計・共済（執行理事 原田典明）

■ 参加資格

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 会員

■ 受講料

無料

■ 申込期間

令和7年2月25日（火）～3月25日（火）

■ 申込要領

※Webからの事前受付が必要です。

1. 会員専用ページへアクセス
2. 「参加申請」を選択
3. 行事検索にて、主催を「日臨技」、種別を「研修会・講習会」に設定
4. 事前登録を行う
5. 「事前参加登録一覧」から登録内容を確認
6. 受講開始

**令和6年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第12回 理事会議事録**

日 時：令和7年2月13日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：松岡 猪浦 山口 濱本 西田 三木
佐瀬 網野 伊藤 藤原 塚原 神嶋
笛木 長谷川 神戸 小林 工藤
久保田 長岡 原 土田
(監事)遠藤

欠 席：(理事)阿部
(監事)細谷

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は21名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。議長は、定款第32条第1項より、松岡優会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和7年1月9日～令和7年2月12日)

1月9日(木)令和6年度第11回理事会：

松岡、猪浦、山口、濱本、西田、
三木、佐瀬、網野、伊藤、藤原、
塚原、神嶋、笛木、長谷川、神戸、
小林、工藤、長岡、久保田、原、
土田、遠藤、細谷

1月14日(火)第1回災害共済委員会：

松岡、猪浦、山口、濱本、西田、
小林、土田

1月14日(火)第53回埼玉県医学検査学会実行委員会：伊藤、藤原

1月16日(木)第52回埼玉県医学検査学会実行委員会：伊藤、三木

1月17日(金)賀詞交歓会：

松岡、猪浦、濱本、西田、三木、
佐瀬、伊藤、藤原、塚原、神嶋、
笛木、長谷川、神戸、小林、工藤、
久保田、原、土田、遠藤

1月18日(土)19日(日)令和6年度 地域ニューリーダー育成研修会：塚原

1月19日(日)タスクシフト指定講習会埼玉031：猪浦、濱本、佐瀬、小林、伊藤、藤原、原

1月24日(金)日臨技賀詞交歓会：松岡、猪浦、神戸(政治連盟)

1月25日(土)第6回日臨技理事会：猪浦

1月27日(月)総務部会議(Web)：三木、佐瀬、網野、伊藤、猪浦

2月1日(土)令和6年度関甲信・首都圏支部人材育成研修会(山梨)：

猪浦、濱本、三木、神戸、網野、伊藤、小林、工藤、笛木、土田

2月1日(土)埼玉県医師会新春のつどい：

松岡、山口、阿部

2月2日(日)第2回一都八県会長会議(山梨)：松岡、猪浦

2月3日(月)第53回埼玉県医学検査学会実行委員会：伊藤、藤原

2月6日(木)青年部委員会研修会 予演会：塚原

2月9日(日)ワークライフバランス推進委員会研修会：

神嶋、小林、藤原、塚原、猪浦

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 1月14日(火)第1回災害共済委員会を開催した。(別紙資料1)

2) 1月16日(木)第50回日本超音波検査学会学術集会学術集会の後援承諾回答をした。

3) 2月3日(月)第16回埼玉輸血フォーラムの後援承諾回答をした。

4) 役員候補者推薦委員会を2月19日にZoomにて開催予定。

2 総務部

1) 1月19日(日)タスクシフト指定講習会埼玉031が開催された。(別紙資料2)

2) 1月27日(月)第2回総務部会議を開催した。(別紙資料3)

3) 2月15日(土)だより第549号発行予定

4) 2月23日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県032)を開催予定。

佐瀬(責任者)、猪浦、伊藤(隆)、工藤、土田、藤原、三木

3 事業部

1) 令和6年度 地域ニューリーダー育成研修会に参加した。(別紙資料4)

- 2) 令和7年賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会を開催した。来年度は1月16日(金)に開催予定。(別紙資料5)
 - 3) 2月9日(日)ワークライフバランス研修会Zoom講演への変更について
講師怪我のため、講演1のみ講師職場からZoom講演となった。
 - 4 学 術 部
 - 1) 1月30日(金)「4月・5月生涯教育研修プログラム」の日臨技システム行事登録作業を完了した。
 - 5 精度保証部
特になし
 - 6 会 計 部
 - 1) 令和6年度正会員費4名20,000円、入会金4名4,000円、合計24,000円の入金があった。
 - 2) 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金85,500円の入金があった。
累計449,500円/10回
 - 3) 石井印刷に埼臨技だより第548号Web版15P72,600円を支払った。
 - 4) 日臨技に地域ニューリーダー育成研修会宿泊費として30,000円を支払った。
 - 5) 株式会社プリントパックに議案書印刷代として22,310円を支払った。
 - 6) 賀詞交歓会の収支報告について
(別紙資料6)
 - 7 精度管理委員会
 - 1) 3月27日(木)17時30分～ Webにて令和6年度精度管理調査報告会を開催予定。
 - 8 一都八県会長会議
 - 1) 2月2日(日)令和6年度第2回一都八県会長会議が開催された。(別紙資料7)
 - 9 日臨技関甲信支部
特になし
 - 10 日臨技
 - 1) 1月25日(土)第6回日臨技理事会が開催された。(別紙資料8)
 - 11 第52回埼玉県医学検査学会
 - 1) 1月16日(木)第16回実行委員会が開催された。(別紙資料9)
 - 12 第53回埼玉県医学検査学会
 - 1) 1月14日(火)第3回実行委員会が開催された。(別紙資料10)
 - 2) 2月3日(月)第4回実行委員会が開催された。(次回理事会で議事録提出予定)
- ### Ⅲ. 承認事項
- 1 事務局
 - 1) 会員動向(令和6年度分)
令和7年2月1日現在
会員数 3,624名[令和5年度会員数3,572名]
(新入会員289名)
賛助会員 72社[令和5年度71社]
承認された。
 - 2) 学会運営規程の改定について
(別紙資料11)
上記の件について、濱本事務局長より「現状に沿った内容に改定」との発言があり、審議の結果、承認された。
 - 2 総務部
特になし
 - 3 事業部
特になし
 - 4 学術部
特になし
 - 5 精度保証部
特になし
 - 6 会計部
 - 1) 退職手当規定(案)について
(別紙資料12)
上記の件について、神戸会計部長より発言があり、審議の結果、承認された。
 - 7 精度管理委員会
特になし
 - 8 第52回埼玉県医学検査学会
 - 1) 決算書の承認について (別紙資料13)
上記の件について、三木総務部長より発言があり、審議の結果、承認された。
 - 8 第53回埼玉県医学検査学会
 - 1) 市民公開講座においてハイブリッド講演のためのZoom使用の許可をいただきたい。
上記の件について、伊藤理事より発言があった。審議の結果、予算内に収めること、通信の脆弱性の問題を解決できること、代替案としてオンデマンドを検討することを条件として承認された。
 - 2) 学会PRにSNS (instagram・X等) の利用を許可していただきたい。また、学会ポスターやPR動画を作成したい。
上記の件について、伊藤理事より発言があった。審議の結果、「instagram」は第53回埼玉県医学検査学会のアカウントを作成すること、「X」は埼玉県臨床検査技師会

のアカウントを利用すること、「学会ポスターやPR動画の作成」は予算内に収めることで、承認された。

- 3) 3月の臨時会員総会で「第53回埼玉県医学検査学会」の広報活動を許可していただきたい。

上記の件について、伊藤理事より発言があり、審議の結果、承認された。

- 10 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会
特になし

IV. 議題

- 1 事務局
特になし
- 2 総務部
特になし
- 3 事業部
特になし
- 4 学術部
特になし
- 5 精度保証部
特になし
- 6 会計部
特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

つい先日大学生の娘が“ChatGPT”を使い文章作成をしておりました。あっという間に作成され、こっ、これが“AI”かあーと私自身も初体験でした。

生理機能検査においても、長時間（5日間または2週間）ホルター心電図検査の解析や12誘導心電図検査の解析、心臓超音波検査の計測などをAIにておこなう時代となってきました。本当に技術の進歩に すっ、すごいと実感しております。

ですが、どんなに“AI”技術が進歩しても、いい加減な手技では活用することはできないのでは・・・

基本（電極の装着や、きれいな超音波画像の描出など）を忘れずに日々精進せねば！

（佐瀬 記）

